

2026年3月期第2四半期（中間期） 決算説明会

2025年11月13日

株式会社エヌアイディ

（証券コード：2349）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）連結決算概要

2. 2026年3月期通期連結業績見通し

3. トピックス

4. 株主還元

付録：会社概要／データ資料

この資料に掲載しております当社の計画及び予想、戦略などは、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後の日本経済や情報処理業界の動向、新たなサービスや技術の進展、不確定要素などにより、実際の業績とは大きく異なる可能性がございます。あらかじめご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）連結決算概要

2. 2026年3月期通期連結業績見通し

3. トピックス

4. 株主還元

付録：会社概要／データ資料

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2025年3月期 第2四半期（中間期） 実績	2026年3月期 第2四半期（中間期） 予想	2026年3月期 第2四半期（中間期） 実績	前期比	予想比
売上高	11,996	12,000	12,774	+6.5%	+6.5%
営業利益	1,521	1,250	1,446	△5.0%	+15.7%
営業利益率	12.7%	10.4%	11.3%	△1.4pt	+0.9pt
経常利益	1,715	1,370	1,565	△8.7%	+14.3%
経常利益率	14.3%	11.4%	12.3%	△2.0pt	+0.9pt
中間期純利益	1,130	940	1,081	△4.3%	+15.1%
中間期純利益率	9.4%	7.8%	8.5%	△0.9pt	+0.7pt

売上高・営業利益のセグメント別（前年同期比較）

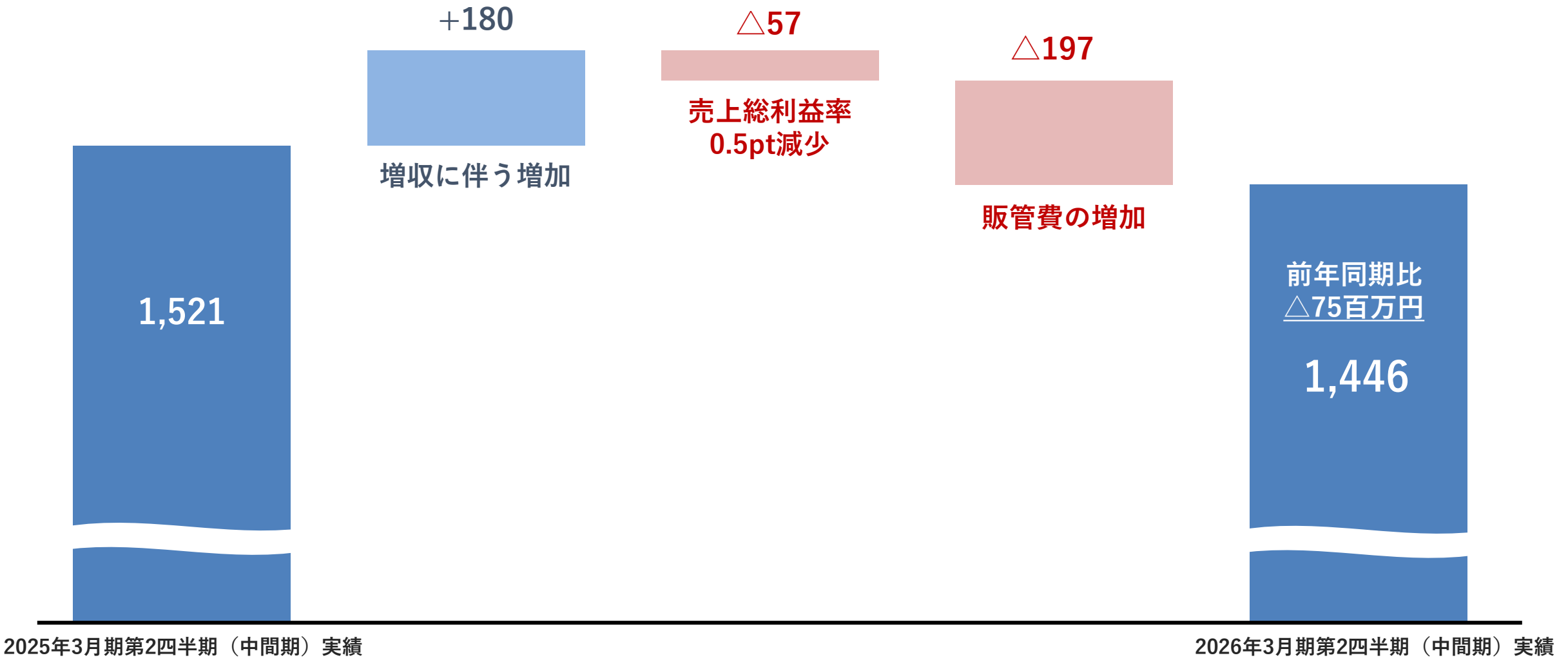
（単位：百万円）



営業利益差異分析（前年同期比較）

●営業利益は前年同期比△75百万円

（単位：百万円）



セグメント別売上・利益構成

(単位：百万円)

	2025年3月期 第2四半期（中間期）実績			2026年3月期 第2四半期（中間期）実績			前年同期比		
	売上高	営業利益	営業 利益率	売上高	営業利益	営業 利益率	売上高	営業利益	営業 利益率
システム 開発事業	8,332	1,135	13.6%	8,842	1,055	11.9%	+6.1%	△7.1%	△1.7pt
システム マネジメント事業	2,817	285	10.1%	3,015	314	10.4%	+7.0%	+10.3%	+0.3pt
その他事業	846	96	11.5%	917	73	8.0%	+8.3%	△24.2%	△3.4pt
連結計	11,996	1,521	12.7%	12,774	1,446	11.3%	+6.5%	△5.0%	△1.4pt

セグメント別売上高

その他事業

エヌアイデイ／NID・MI／NID air
2026年3月期第2四半期（中間期）
売上高

917 百万円

- データソリューション分野
- 人材派遣分野
- プロダクト分野

システムマネジメント事業

エヌアイデイ
2026年3月期第2四半期（中間期）
売上高

3,015 百万円

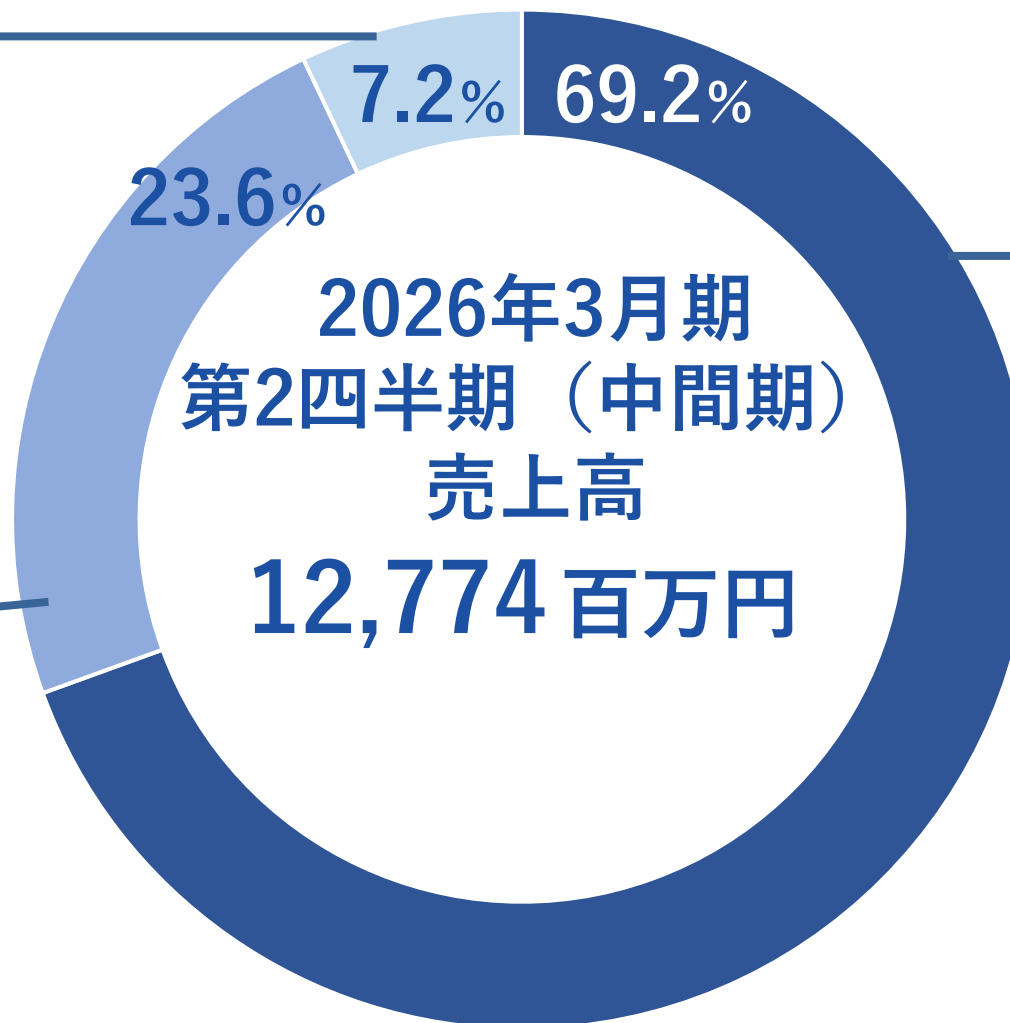
- 運輸・通信分野
- 金融・保険分野
- 官公庁・団体分野
- 建築・製造分野
- 卸売・小売分野
- その他分野

システム開発事業

エヌアイデイ／NID・MI／
NID東北／テニックス
2026年3月期第2四半期（中間期）
売上高

8,842 百万円

- 金融分野
- 情報・通信分野
- 公共・社会インフラ分野
- カーエレクトロニクス分野
- FA・装置制御分野
- 官公庁・その他分野



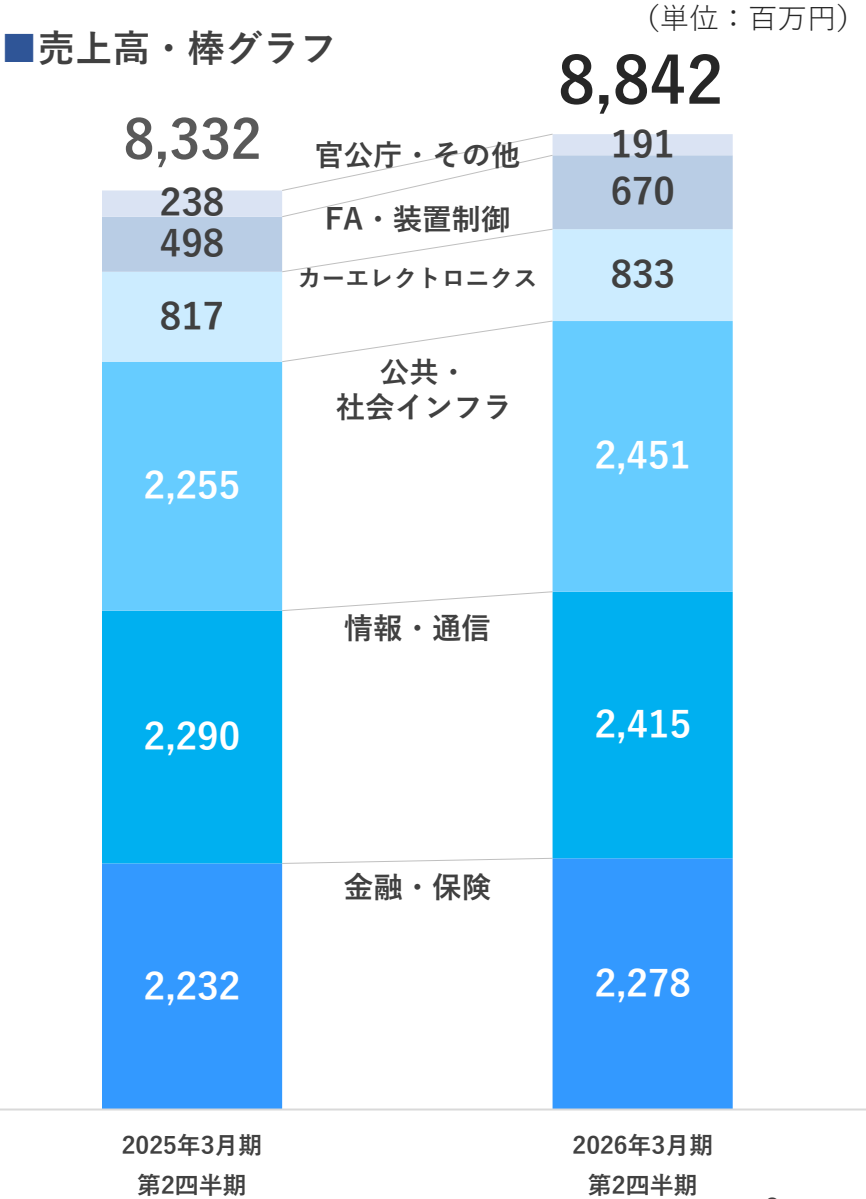
売上高・営業利益

	2025年 3月期2Q	2026年 3月期2Q	前期比	要因
売上高	8,332	8,842	+ 6.1%	売上高が増加した一方、採算性の低下した案件が発生したことにより増収減益
営業利益 (営業利益率)	1,135 (13.6%)	1,055 (11.9%)	△ 7.1%	

分野別売上高

金融・保険	2,232	2,278	+ 2.1%	生保・共済系が好調に推移
情報・通信	2,290	2,415	+ 5.5%	既存顧客の案件拡大、および新規領域の参画が寄与
公共・社会インフラ	2,255	2,451	+ 8.7%	電力系案件、防衛関連が好調に推移
カーエレクトロニクス	817	833	+ 2.0%	主要顧客の受注が好調に推移
FA・装置制御	498	670	+ 34.5%	主要顧客の受注増に加え、採算性の改善も寄与
官公庁・その他	238	191	△ 19.8%	テスト工程のスポット案件が剥落

売上高・棒グラフ



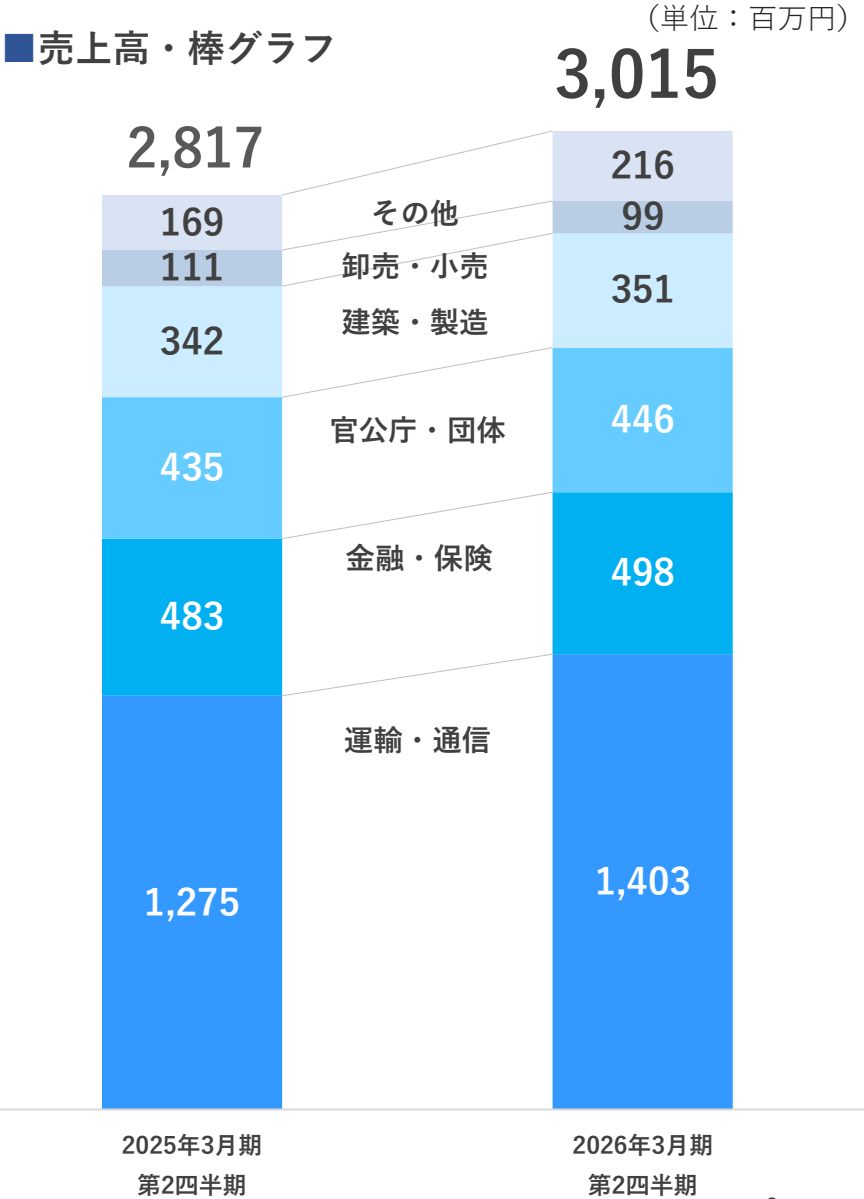
売上高・営業利益

	2025年 3月期2Q	2026年 3月期2Q	前期比	要因
売上高	2,817	3,015	+ 7.0%	新規案件獲得による売上高の増加に加え、採算性の改善等により増収増益
営業利益 (営業利益率)	285 (10.1%)	314 (10.4%)	+ 10.3%	

分野別売上高

運輸・通信	1,275	1,403	+ 10.0%	主要顧客の受注が増加
金融・保険	483	498	+ 3.0%	構築系案件が好調に推移
官公庁・団体	435	446	+ 2.5%	運用体制再構築案件を受注
建築・製造	342	351	+ 2.6%	運用設計/構築案件の受注が好調に推移
卸売・小売	111	99	△ 10.2%	出版関連の縮小が影響
その他	169	216	+ 27.4%	運用支援業務が好調に推移

売上高・棒グラフ



その他事業

(単位：百万円)

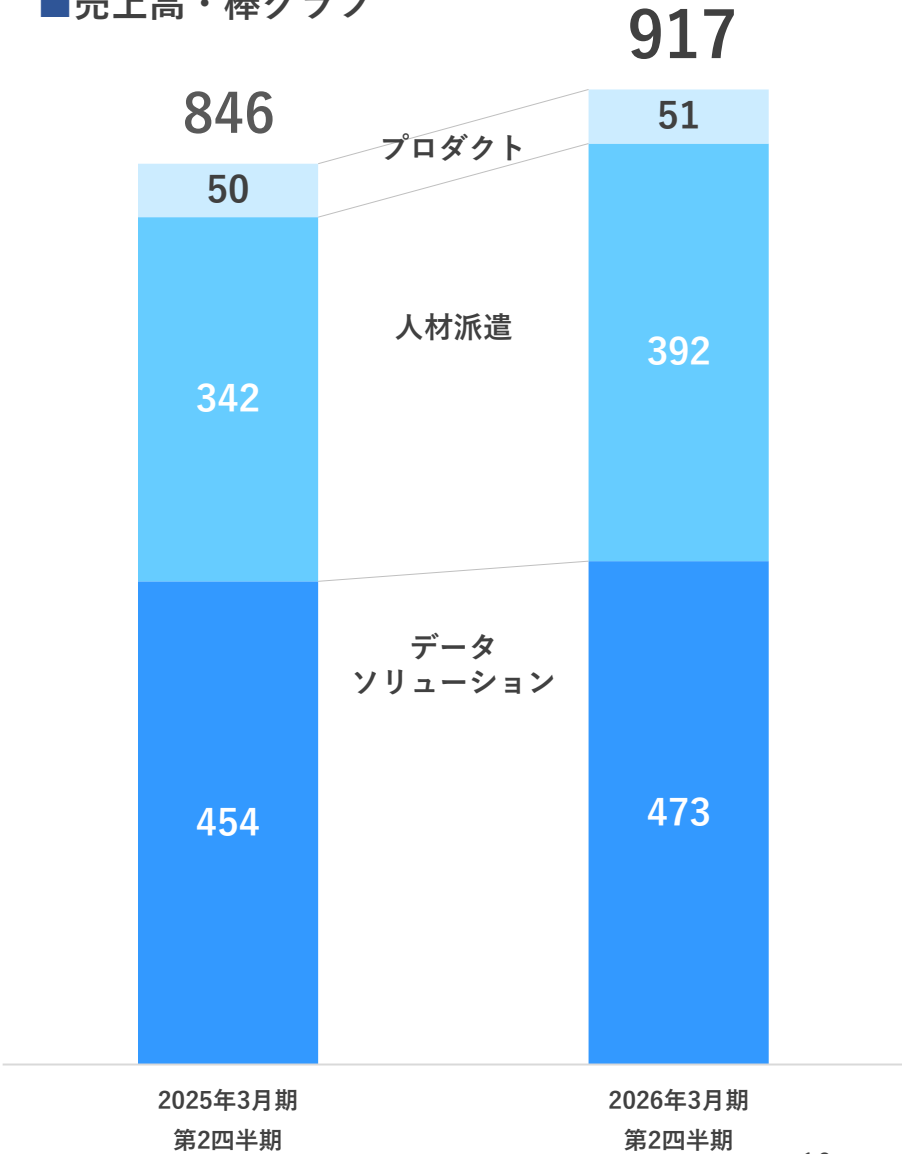
■売上高・営業利益

	2025年 3月期2Q	2026年 3月期2Q	前期比	要因
売上高	846	917	+ 8.3%	売上高が増加した一方、短納期の案件対応により採算性が低下し増収減益
営業利益 (営業利益率)	96 (11.5%)	73 (8.0%)	△ 24.2%	

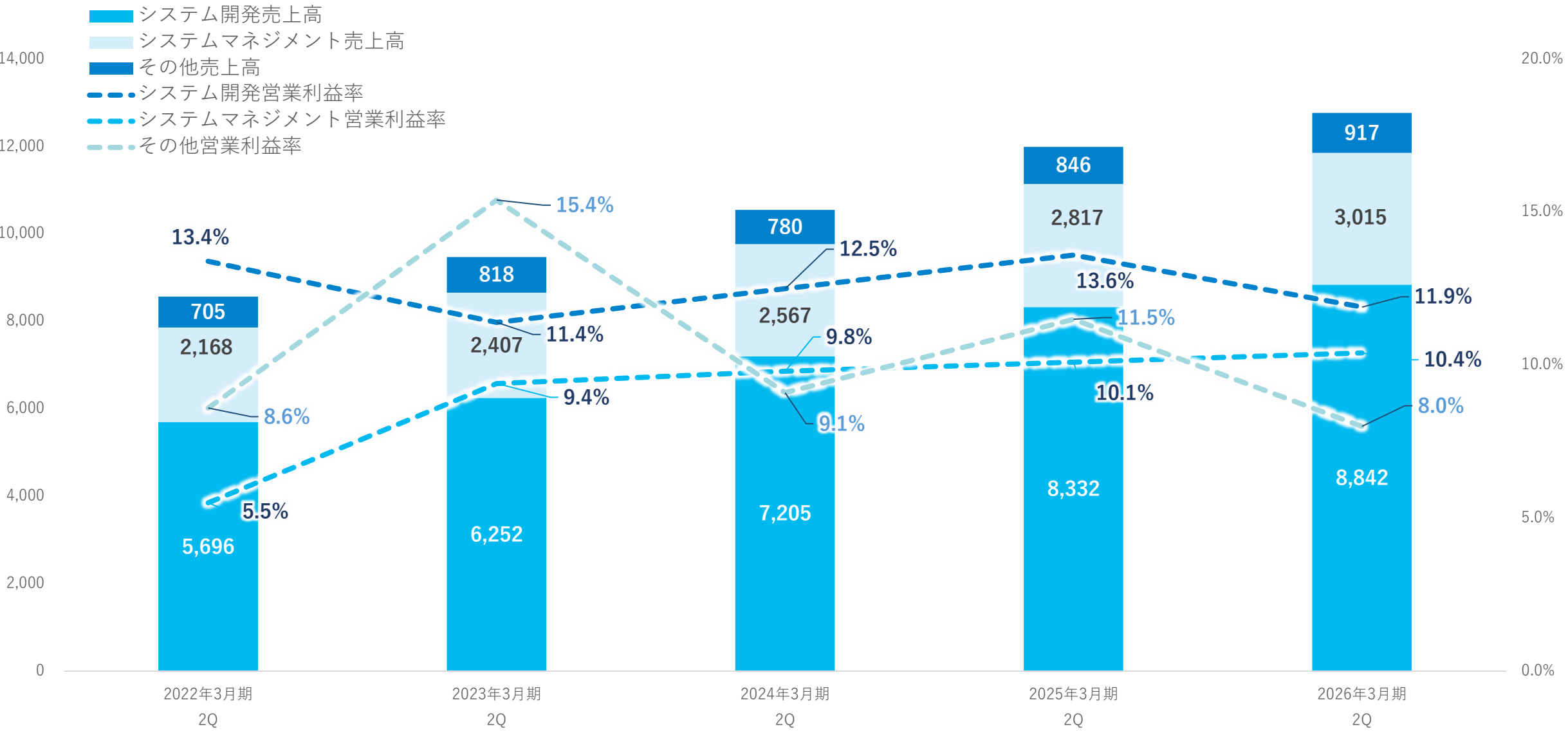
■分野別売上高

データソリューション	454	473	+ 4.3%	共済保険関連の案件獲得
人材派遣	342	392	+ 14.6%	地方公共団体での補助金関連業務が伸長
プロダクト	50	51	+ 1.6%	—

■売上高・棒グラフ



セグメント別売上高・営業利益率推移



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2025年3月期 年度末	2026年3月期 第2四半期 (中間期) 末	増減額	主な増減要因
流動資産	20,769	21,276	+ 507	現金及び預金 + 643 売掛金 △214
固定資産	7,464	7,858	+ 394	仕掛品 + 54 有形固定資産 + 93
資産合計	28,233	29,134	+ 901	投資有価証券 +465 繰延税金資産 △151
流動負債	3,492	3,315	△ 177	買掛金 + 54 未払金 △117
固定負債	3,210	3,200	△ 10	未払消費税等 △89 賞与引当金 + 67
負債合計	6,703	6,515	△ 188	受注損失引当金 △98
純資産合計	21,529	22,619	+ 1,089	利益剰余金 + 776 その他有価証券評価差額金 + 310
負債純資産合計	28,233	29,134	+ 901	配当金の支払 △305

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2025年3月期 第2四半期 (中間期) 実績	2026年3月期 第2四半期 (中間期) 実績	主な要因
営業活動によるCF	1,236	1,108	税金等調整前中間純利益 + 1,565 売上債権の減少 +184 法人税等の支払額 △532
投資活動によるCF	△14	△157	有形固定資産の取得による支出 △128
財務活動によるCF	△297	△307	配当金の支払額 △305
現金及び現金同等物の増減額	924	643	
現金及び現金同等物の期末残高	14,454	16,133	

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）連結決算概要

2. 2026年3月期通期連結業績見通し

3. トピックス

4. 株主還元

付録：会社概要／データ資料

国内経済

●大企業業況判断DI

大企業製造業の業況判断指数は、小幅ながら2四半期連続で改善。日米関税交渉の合意による警戒感の後退や、コスト増加分の価格転嫁進展が背景。

大企業非製造業の業況判断指数は、前回調査から横ばい。設備投資が堅調に推移する一方、インバウンド消費需要の鈍化や物価高による消費の減速が影響。

(日銀短観2025年9月調査)

国内IT市場

●2025年国内ITサービス市場見通し

2025年はクラウド移行やモダナイゼーション、デジタルイノベーション実現の取り組みなどにけん引され、引き続き順調な成長の継続を見込む。

2029年までの年間平均成長率は6.7%を見込んでおり、2029年には国内ITサービスの市場規模が12兆1,651億円になると予測されている。

(IDC Japan 2025年6月23日発表)

当社への影響

●システム開発事業は堅調に推移も外部要因により一部業種に不透明感

公共・社会インフラ分野は堅調に推移するものの、業種によっては米国の関税政策の影響や、それに伴う中国、欧州の景気減速などにより、不透明感は依然として継続すると見込む。

●システムマネジメント事業は緩やかながら堅調な推移を見込む

一部主要顧客のシステム投資は堅調に推移するが、海外経済減速の影響を懸念。

●その他事業は既存顧客の深堀り、新規開拓営業の強化策を継続し、受注増を見込む

2026年3月期通期連結業績見通し

(単位：百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	前期比	
売上高	24,968	25,000	+ 31	+ 0.1%
営業利益	3,077	3,100	+ 22	+ 0.7%
経常利益	3,403	3,340	△ 63	△ 1.9%
当期純利益	2,367	2,270	△ 97	△ 4.1%

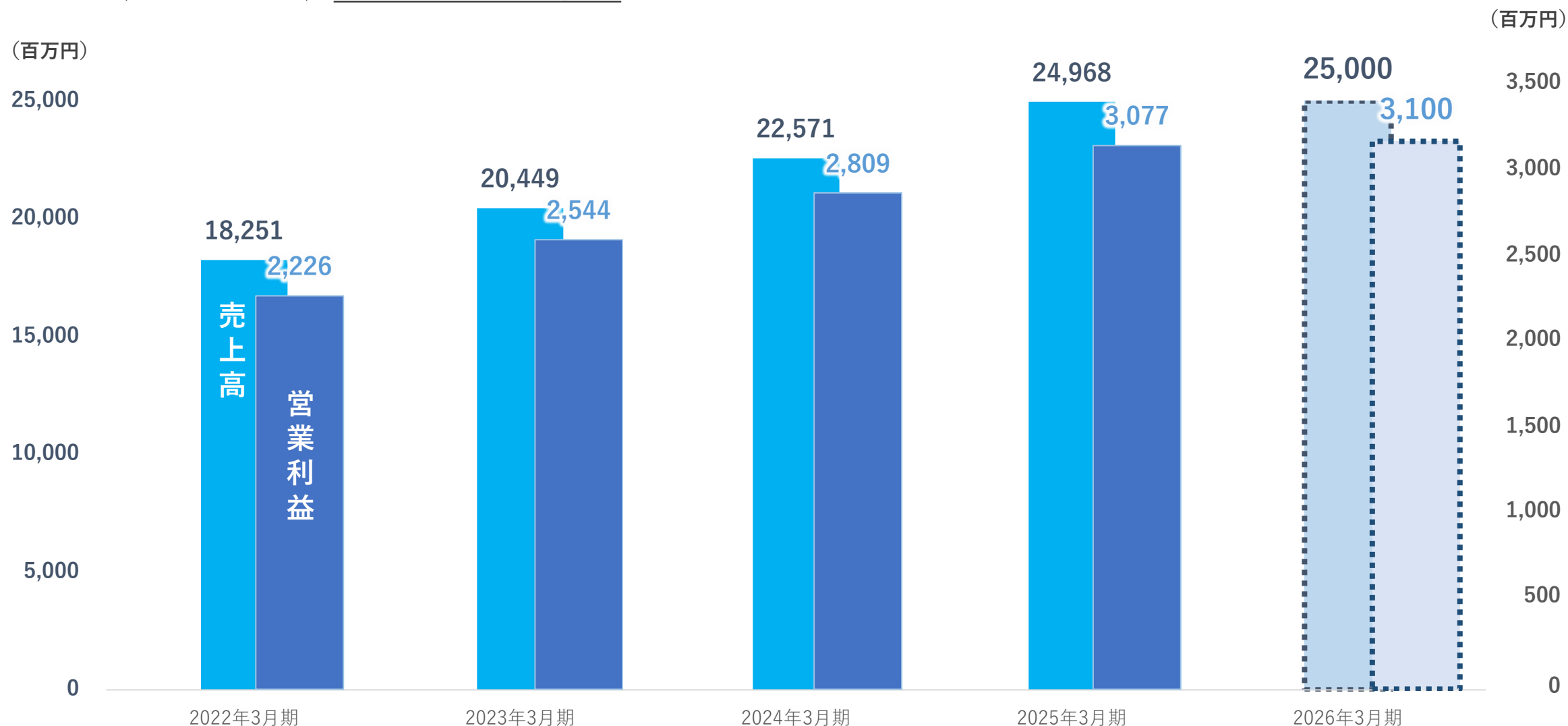
2026年3月期通期連結業績見通し（セグメント別）

（単位：百万円）

	2025年3月期 実績		2026年3月期 通期予想		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
システム開発事業	17,282	2,263	17,290	2,280	+7	+16
システム マネジメント事業	5,829	602	5,840	610	+10	+8
その他事業	1,855	206	1,870	210	+14	+4
連結計	24,968	3,077	25,000	3,100	+31	+22

2026年3月期通期連結業績見通し（5年推移）

●売上高、営業利益、いずれも過去最高を予想しています



1. 2026年3月期第2四半期（中間期）連結決算概要

2. 2026年3月期通期連結業績見通し

3. トピックス

4. 株主還元

付録：会社概要／データ資料



●プロフットサルチーム・バルドラール浦安と共同研究を開始（2025年7月）

バルドラール浦安が、当社のAIに関する研究開発の取り組みや顧客への最適化を目指すソリューション開発姿勢に共感し実現。汎用カメラで撮影した映像をもとに、AIのトラッキング技術を活用して選手の走行距離やスピードをデータ化します。結果を選手の強化、怪我の予防に活用するとともに、スコアに表れにくいチームへの貢献を可視化するなどデータ分析手法を検証し、2026-2027シーズンでの実用化を目指します。なお本研究は、これまで実施してきた顔認証や転倒防止などの画像認識に関する研究の延長線上と位置付けております。

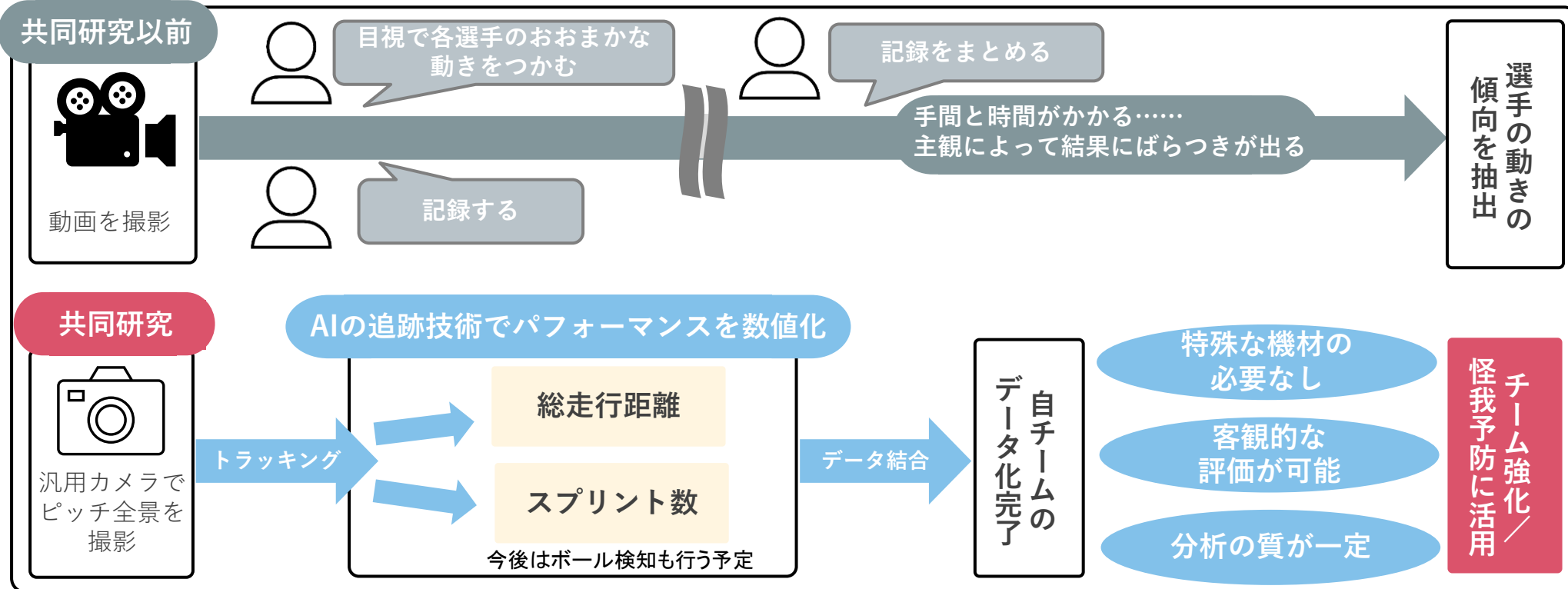
●バルドラール浦安



日本フットサルリーグ
ディヴィジョン1
(F1リーグ) 所属
本拠地：千葉県浦安市

地域密着型クラブとして選手育成とフットサル文化の普及に取り組む。
また、「地域社会に愛されるクラブ」を理念に掲げ、こども向けのプロジェクトやホームタウン活動など、地域貢献活動にも積極的に行う。
2024-25シーズンでは念願の初優勝も達成。さらなる飛躍を目指す。

●共同研究概要



千葉大学との取り組み（産学連携）

普遍教育・ローカルイノベーション学の講義を担当

7月9日、オムニバス形式の講義「世界遺産のまちから学ぶ～佐原の大祭とまちづくり」で当社社員が講師を務めました。

まちづくりの現場での取り組みと意義を伝える本講義は、全学共通教養教育科目に位置付けられています。さらに地域産業・イノベーションや地域・コミュニティに関する幅広い教養に加え、地域再生の知識、実践力を身に付ける全学副専攻プログラム「ローカルイノベーション学」の指定科目にもなっています。

当日は「企業と地域の関わり」をテーマに、当社が事業活動を行う中で佐原地区から得られた知見を講義しました。

講義終盤では学生から質問が相次ぎ、双方で盛り上がる充実した回となりました。



当日は100名以上の学生が出席



受講者の質問に応じる当社社員

佐原のあしたPROJECT が単位認定対象になりました

佐原のあしたPROJECTが、本年度の千葉大学アントレプレナーシップセンターの科目「アントレプレナーのためのインターン（国内）」として単位認定されました。

当社が主催する佐原のあしたPROJECTは、千葉大学が推進する実践型教育の一環として位置づけられ、本プログラムに参加し、条件を満たした学生には単位が付与されます。

今回参加した学生は「山田ふるさと農園プロジェクトver0.5」のメンバーとして、「農業体験をしたい」というニーズと農園の活性化を繋げるアイデアを発表。審査員からも高い評価を得ました。

当社は今後も大学と連携し、次の世代のイノベーション創出の担い手の育成に努めてまいります。



発表の様子



受賞者集合写真

オフィス拡張（NID・MI）

●2025年6月16日、グループ会社NID・MIが事業拡大に伴いオフィスを拡張しました。

執務スペース



執務スペースは広々とした空間を意識し、テレブース、ミーティングブース、プロジェクトルームをあわせて設置。全体的に落ち着いた雰囲気開放感があり、ON・OFFのメリハリが付きやすい働きやすいオフィスとなっています。

リフレッシュエリア



リフレッシュエリアは社員の憩いの場になれるような空間を意識し、緑豊かな木と天然木材のベンチを設置。心が落ち着く公園のような佇まいを演出しました。また室内からは東京湾全体が一望できるため、開放感あふれる癒しのエリアとなっています。

■新エリア概要

住所：千葉県千葉市美浜区中瀬1-6 m BAY POINT 幕張18階（既存オフィスの拡張）

面積：約275坪（既存オフィスと合算すると約550坪）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）連結決算概要

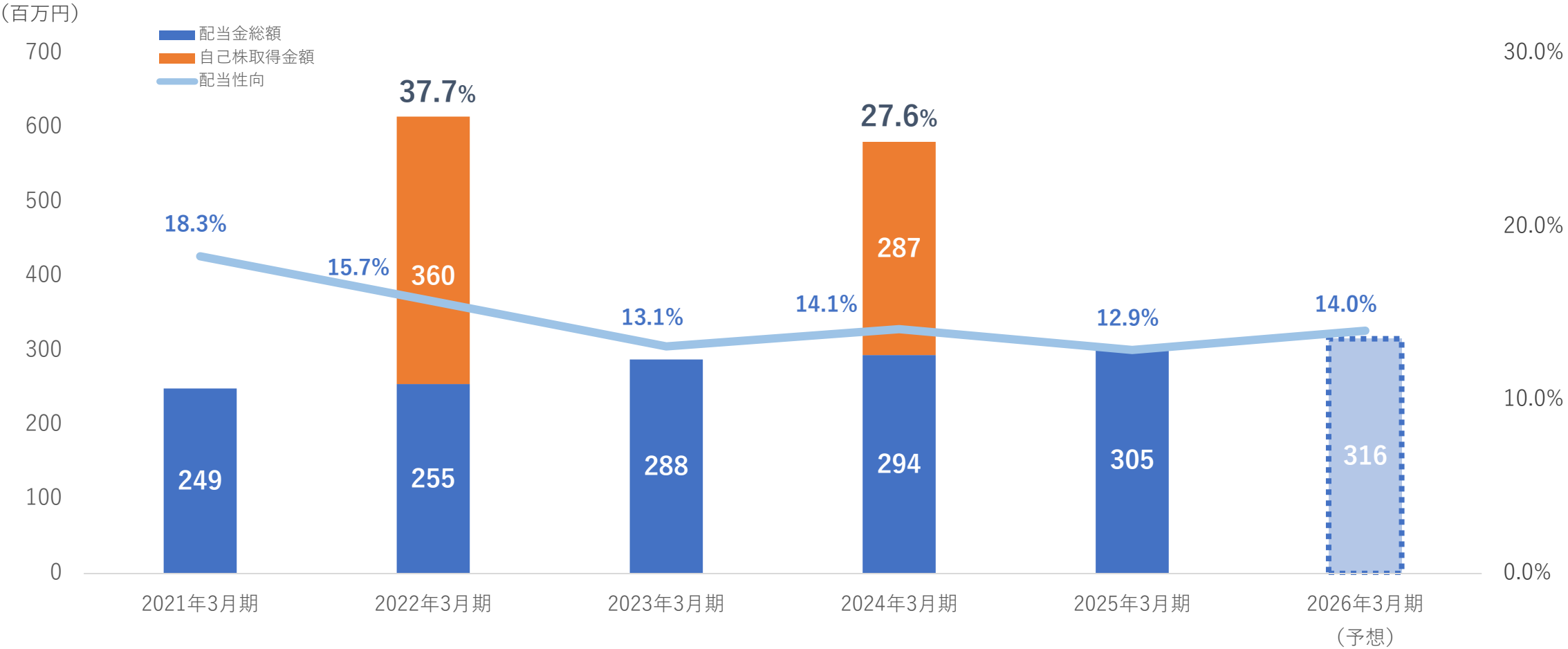
2. 2026年3月期通期連結業績見通し

3. トピックス

4. 株主還元

付録：会社概要／データ資料

●期末配当予想は 1 株あたり29円（5年連続増配）といたします。



一株配当金	22円	23円	26円	27円	28円	29円
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

ご清聴ありがとうございました